

## 令和3年度練馬区災害医療運営連絡会 会議要録

- 1 日時 令和4年3月23日(水)午後3時00分～4時00分
- 2 会場 Web会議(練馬区役所本庁舎7階防災センター)
- 3 出席
- |       |      |                 |
|-------|------|-----------------|
| 三宅 康史 | 委員   | (帝京大学医学部)       |
| 伊藤 大介 | 委員   | (練馬区医師会)        |
| 齋藤 文洋 | 委員   | (練馬区医師会)        |
| 斉藤 良造 | 委員   | (練馬区歯科医師会)      |
| 浅田 博之 | 委員   | (練馬区歯科医師会)      |
| 小田 真也 | 委員   | (練馬区薬剤師会)       |
| 江原 秀夫 | 委員   | (東京都柔道整復師会練馬支部) |
| 杉田 学  | 委員   | (順天堂練馬病院)       |
| 岩崎 登  | 委員   | (順天堂練馬病院)       |
| 光定 誠  | 委員   | (練馬光が丘病院)       |
| 木村 優介 | 委員   | (練馬光が丘病院)       |
| 加藤    | 委員代理 | (練馬警察署)         |
| 金谷    | 委員代理 | (光が丘警察署)        |
| 清水    | 委員代理 | (石神井警察署)        |
| 清水 猛  | 委員   | (練馬消防署)         |
| 川村亮太郎 | 委員   | (光が丘消防署)        |
| 甲斐 康仁 | 委員   | (石神井消防署)        |
| 三浦 康彰 | 委員   | (地域医療担当部長)      |
| 生方 宏昌 | 委員   | (危機管理室長)        |
| 向山 晴子 | 委員   | (保健所長)          |

### 【事務局】

- |       |           |
|-------|-----------|
| 高橋 雄貴 | 地域医療課長    |
| 染野 好章 | 防災計画課長    |
| 内田 勝幸 | 医療環境整備課長  |
| 宮原 恵子 | 石神井保健相談所長 |

## 4 議題

- (1) 令和3年度 練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果報告
- (2) 令和4年度 練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について

## 5 報告事項

- (1) 令和3年度 訓練実施結果報告について

## 6 配付資料

- 資料1 令和3年度 練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果報告
- 別紙1 災害時における情報共有ツールの増設について（概要）
- 別紙2 ICTを活用した災害時における情報共有ツール 運用ガイドライン
- 別紙3 ICTを活用した災害時における情報共有ツール 運用ルール
- 別紙4 令和3年度 医療救護所訓練実施結果について
- 別紙5 医療救護所における医療救護班等活動マニュアル（修正案）
- 資料2 令和4年度 練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について
- 資料3 令和3年度 実施訓練結果報告
- 参考 練馬区災害医療運営連絡会設置要綱

## 7 会議の概要

### （1）令和3年度 練馬区災害医療運営連絡会専門部会の検討結果報告

検討事項1：災害時における情報共有ツールの増設について

⇒ 資料1および別紙1～3について、別添により事務局から説明

【委員】 病院でLINE WORKSを使用している。例えば、先日の地震の際に当院齋藤委員は停電したのだが、その際にLINE WORKSを使用し、部門長に一斉に情報収集を指示した。その結果、速やかに情報を集約・共有し、対応に向けて行動に移すことができた。しかし、慣れは必要だと感じるので、実際に使って練習することは必要かと思う。

【委員】 新型コロナウイルス感染症対応で使用するHER-SYSでも言えることだが、伊藤委員は、せっかく良いツールであっても慣れていないと使いこなせない。また、災害時には様々な情報が飛び交うことが想定されるので、LINE WORKSでの情報が埋没しないかということは心配である。情報が多くなると、どの情報が重要なのか強弱が付きづらくなるので、LINE WORKSだけにこだわらない運用が大事である。

【委員】 DMAT隊員ではLINE WORKS、院内の情報連絡はMicrosoft Teamsを使用しているところではあるが、現在、習熟段階であるので、使い勝手などはあらためてご報告したい。

検討事項2：感染症流行時における医療救護所訓練の実施について

その他：①練馬区医療救護カレンダー2022について

②災害医療等に関する動画の作成について

⇒ 資料1および別紙4～5について、別添により事務局から説明

【委員】 コロナ禍の中、例年とは異なった形での訓練であったが、いつもは見ることができない他の職種の動きを確認することができたので、その点は良かったと思う。一方で時間が限られていたり、多くの傷病者役の対応等ができなかったことは、次回への課題だろう。

【委員】時間がタイトで、トリアージを行うにしても、数人しか対応できな  
江原委員 かったので、もう少し時間をかけて深く訓練ができると良かった。

【委員】今回は、シナリオに沿った訓練ではなく、実際の災害のように、現  
杉田委員 場で判断していくようなプログラムであったため、効果があったの  
ではないかと思う。

【委員】訓練と実際の災害時には、ギャップは必ずあると思うので、これか  
伊藤委員 らも様々な状況を想定して訓練を行っていただきたい。

## (2) 令和4年度 練馬区災害医療運営連絡会の検討事項について

⇒ 資料2により事務局から説明

【会長】令和4年度については、皆さまからご意見を伺い、検討すべき課題  
を考えていきたい。

【委員】近年、災害の種類が多様化している。これまでは、地震をメインテ  
齋藤委員 ーマとして検討を続けてきているが、台風による水害やブラックア  
ウトのような停電に関する事など、それぞれの災害についての検  
討を始めていくとよいのではないか。

【委員】看護師の事前登録制度における登録数を増やす試みや講習について  
杉田委員 は引き続き進めていってほしい。練馬区の災害時のプラン等知  
識の提供を行う場合は、登録看護師だけでなく、区内で勤務する看  
護師も対象に含めて行えば、より裾野が広がり、登録していなくて  
も区の災害医療に協力してもらえる人が増えるかもしれないので、  
そういった取り組みもよいと思う。

【委員】アクションカードの作成やLINE WORKS の導入を進めてきているとこ  
光定委員 ろなので、実効性を高めるために、それらの精度を高めていくとよ  
いだろう。また、民間救急事業者等との搬送協定を締結している  
ところかと思うが、搬送に関して、より具体的に協議を行っていく  
とよいだろう。

【委員】コロナ禍を経験して、地震などの大災害が起こった場合、それぞれ  
伊藤委員 の会の医療従事者の情熱や熱意だけでは疲弊してしまうと思うので、  
行政から何らかのサポートを検討してほしい。

※令和4年度の検討事項については、あらためて事務局で整理し、令和4年  
度第1回専門部会で協議した後、練馬区災害医療運営連絡会委員に諮ること  
とする。

## (3) 令和3年度 訓練実施結果報告について

⇒ 資料3により事務局から報告

【委員】東京都がEMISの他にBCPortalというシステムを使って情報収集を  
齋藤委員 することがあるが、これは行政間でも認識しているものなのか。

【事務局】区においては、東京都から EMIS と BCPortal を併用するよう指示は受けていない。しかし、BCPortal を閲覧する権限は持っているので、状況に応じて使用したい。

(4) その他

【会長】案件は以上であるが、その他委員からご意見等はあるか。ほかになれば、今年度の災害医療運営連絡会は閉会とする。